

第9章 職業学科・高等部分校

第1節 各教科の実践事例1 高等部生活技術科 教科別の指導「数学」

1 年間指導計画

月	授業名	授業時数	授業目標	評価
4月	「数と計算」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な加減乗除の計算ができる。 ・計算の順序を判断し、電卓を活用して正しく計算できる。 ・一定時間集中して計算に取り組むことができる。 	
5月	「時間と時刻」	14	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と時刻の違いを理解し、経過した時間とその結果の時刻が適切に計算できる。 ・スケジュールを組む際の適切な時間設定ができる。 ・カレンダーを活用して、予定を書き込んだり余暇活動を考えたりできる。 	
6月				
7月	「買い物の計算」	16	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物について、合計金額や釣銭の計算、残金の計算ができる。 ・食事作りなど、目的に即した商品の選択をしたり、予算立てをしたりする。 	
9月				
10月	「割引」	14	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物における「割引」について「パーセント」「割」があることを知り、概念を身に付ける。 ・「〇割引」「〇パーセント引き」の両方について、計算し有利な方を判断できる。 ・割引理由を考え、消費生活をする意欲と態度を養う。 	
11月				
12月	「家計簿と節約」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月の家計について考え、家計簿をつけることができる。 ・適切な収支と節約や貯蓄について考え、収入の中で生計を立てられるよう計算できる。 	
1月				
2月	「表とグラフ」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表などのデータの見方を知る。 ・日常生活における事象について、表やグラフなどの資料を読み取り、考察する力を身に付ける。 ・簡単な調査結果から、工夫して表やグラフに分かりやすくまとめる。 	
3月				

2 本指導案

高等部生活技術科（2年〇組）教科別の指導「数学」学習指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）
第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
場 所 教室
指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 「相手に伝わる表やグラフを作ろう」

2 題材設定の理由

(1) 生徒観 ※学習集団の構成、障害特性、課題等

対象となる2学年〇組は、男子7名、女子3名の計10名が在籍している。主たる障害は軽度の知的障害であり、ADHDや自閉症スペクトラム障害の傾向のある生徒もいる。

基本的な生活習慣はほぼ確立されているが、物事の優先順位の判断が難しい生徒、整理整頓が苦手である生徒がいる。

授業規律は概ね確立している。教員から指導を受けたり友人とトラブルになったりすると気持ちが落ちこんでしまう生徒や、悩みがあると頭痛や腹痛など身体症状が現れる生徒もいるので、自らの気持ちと向き合って整理できるような支援が必要である。

会話によるコミュニケーションが成立するが、発音の不明瞭や大きな声を出すことの苦手さ、話の内容理解に時間がかかるなどの困難がある生徒がいる。また、自分の気持ちを優先した言動をとってしまい、トラブルになってしまうこともある。しかし、クラスとして約1年間を過ごす中で、互いのことを理解して行動できつつある。今後も集団としてまとまり、互いにかかわりながら創造的に活動をしていくために、自己理解と他者理解を深める指導と支援が必要である。

数学に関しては、平易な加減乗除の計算ができる。日常生活の中で表やグラフを目にする機会があり、様々な種類のグラフがあることを概ね理解している。割合や比の考え方に対して苦手意識を持っている生徒もいる。表やグラフから数値などの情報を断片的に読み取ることはできても、数量をもとにグラフを作図した経験のある生徒は少ない。生徒一人一人の経験値やつまづきが異なるので、それぞれに合わせた支援が必要となる。

(2) 題材観

本題材は表やグラフの活用に関する学習を行う。本題材の学習をとおり、表やグラフを正しく読み取る力と、正しく数処理をして分かりやすくまとめ表現する力を身に付ける。これは、生活において必要な情報を取得する力につながる。また、調査結果による数値を工夫しながら表やグラフの作成する学習は、物事を整理しながら他者に伝える力と、自らの知識を基に他者に伝えるように表現する力の育成に寄与すると考える。グループ学習により、まとめ方やグラフのデザインについて話し合うことなどとおし、表現力やコミュニケーション能力の伸長をねらうこともできる。

さらに、グラフの作成は、グラフの種類を選択や、縦軸と横軸の項目や数値の設定、色や形の決定など、思考して判断することが多い。そして、この過程で、生徒同士で話し合ったり、生徒自身から教員に相談したりしながら取り組むことで、より深い理解を得ることが期待できる。また、アンケートをとる前に結果を予想する活動を入れることで、「予想→アンケートの実施→結果をまとめる→結果の考察」という一連の調査・研究的学習になる。

なお、本題材は、特別支援学校高等部学習指導要領の各教科（知的障害）「数学」の目標を踏まえて指導する。段階については、1段階のD「データの活用」（ア）～（ウ）を取り扱う。

(3) 指導観

数学における、立式、解答方法の説明などの「表現」を大切にし、それを伝え合う「対話的な学び」を通じて「深い学び」につなげていきたいと考えている。単なる数字の答えを求めるだけでなく、その過程に目を向けていくことで思考力と判断力の伸長をねらう。本時も、表やグラフを作成する上での工夫などを話し合うことを通して、表現力や人間性を養っていく。

表やグラフを作成するテーマは生徒自身が決めて調べることにする。例えば、「好きなおにぎりの具は何か」について全生徒・教師からアンケートをとり、その結果をまとめる。生徒にとって身近であり、自分たちで決めたことであるため、興味関心が最適になり、主体性の高い学習が期待できる。

生徒が難しいと感じるところは、グラフ作成における数値の設定であり、調査結果の最小値や最大値を考慮して、目盛りをつけていくことである。例えば、最大値が100でも、10、20…と目盛りを付ける場合もあれば、20、40…と付ける場合もある。数量の概念と数列の概念を働かせて考え、判断しなければならない。生徒が作ったものを尊重しつつ、なぜそうしたのか、もっと分かりやすくするにはどうしたら良いかを数学的に考える経験ができるよう支援する。

本時の学習では、3、4人のグループで学習を取り入れる。前述の通りコミュニケーションに課題の

ある生徒が多いため、物事を生徒が主体的に協力しながら解決していく経験を積むことができるようにし、これまでも他教科等で学習している「話し方」「聞き方」や、生徒一人一人の自立活動の目標を踏まえ指導する。生徒同士の対話を軸に活動がすすめられるように言葉がけ等で促していきたい。

授業を受ける姿勢や態度については、場面の区切りを明確に示し、授業規律を大切に促す。また、生徒観察に努め、必要に応じて気持ちを切り替えながら授業に取り組めるように支援する。それでも難しい生徒がいた場合は、グループ学習から一度離し個別に指導を行う。

3 生徒の実態

氏名(記号)	生活全般の実態(課題)	単元(題材)に関する実態
A	周囲の状況に関係なく、自分の話したいままに話してしまうことがある。 気持ちが先行する様子で、早口になりやすい。落ち着いて話すとはっきり言い直すことができる。	表を見て、数値をグラフに表すことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
B	自分の気持ちを言葉にして表出することに時間を要する。 苦手意識があることから目は背けて、取り組むことを避けることがある。	表を見て、数値をグラフに表すことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
C	周りが見えずに自分の思いで行動することがある。 自己肯定感が低い。自信がなく、自分の気持ちを伝えることができない。「どうせ～」など否定的な表現が多い。	表を読み取り、おおよその値を用いたグラフを書くことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
D	優しい性格で、困っている人に気付いて手を貸すことができる。 騒がしい環境にストレスを感じる。その場を離れたたり、身体を動かしたりしてイライラを発散できる。	表を見て、数値をグラフに表すことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
E	リーダーシップを発揮し、クラスをまとめることができる。 自分の思いを表すことを我慢してしまうことが多く、体調不良を訴えることがある。	表を読み取り、おおよその値を用いたグラフを書くことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
F	自分の見立て通りに事が進まないときに、不安から否定的な発言をすることがある。 気になることがあると、教員と多く関わりを持つことがある。	表を読み取り、おおよその値を用いたグラフを書くことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
G	深い意図はなく否定的なことを言ってしまう、他者に不快な思いをさせてしまうことがある。 必要な報告や相談がスムーズできないことが多い。	グラフの縦軸の目盛りが大きすぎるものがあつたが、繰り返し取り組むことで正しい目盛りを設定できるようになってきた。
H	自分から友達と関わろうとするのは少ない。 声が小さく、相手に伝わりづらい。 相手を不快にさせてしまう発言が時々ある。	表を見て、グラフに表すことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
I	集団生活でうまくいかない、いらいらして周囲に接することがある。 少人数であれば、協力しながら前向きな発言をして取り組めるようになってきた。	表を見て、グラフに表すことができる。 グラフの縦軸の目盛りを正しく設定することができる。
J	否定されると、気持ちが不安定になることがあり、気持ちの切り替えに時間がかかる。 自ら言葉にして説明することが苦手であるが、本人と関わりがある大人が向き合うと少しずつ話すこともある。	表やグラフを読み取るができる。

4 題材の目標

(1) 共通目標

- ② 表やグラフを正しく読み取ることができるようにする。(知識及び技能)
- ② 数値を基に、工夫しながら表やグラフを正しく作成できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 自分の考えを、相手の立場に立って適切な言葉と態度で伝えることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 個人目標

氏名(記号)	題材に関する目標	教育支援プランBの目標
A	表やグラフの読み方が理解できるようにする。 表やグラフを丁寧に書いて作成することができる。	手元に集中して取り組む。 最後まで丁寧に作業に取り組む。
B	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	見たり考えたりしたことや、自分の意思を相手に伝える。 納得ができない時や理解が難しい時でも、会話でやりとりをする。
C	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	適切な姿勢と態度で取り組む。 否定的な言動を減らし、物事に積極的に取り組む。
D	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	自分の体調や心理状態の変化に気づき、適切に伝え対処する。 継続して取り組めることを増やす。
E	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	適切な姿勢と態度で取り組む。 否定的な言動を減らし、物事に積極的に取り組む。
F	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	身の回りの整理整頓に気を配りながら物事に取り組む。 やるべきこと、やらなくてよいことを分けて理解し、落ち着いて取り組む。
G	表やグラフの種類を知り、読んだり書いたりすることができるようにする。 社会や生活で使われている表やグラフについて理解し、活用する。	分からないことがあったら自分から質問をする。 発言の適、不適を考えながら会話をする。
H	表やグラフの読み方が理解できるようにする。 表やグラフを丁寧に書いて作成することができるようにする。	適切な声の大きさで話す。 スムーズに会話をする。
I	表やグラフの読み方が理解できるようにする。 表やグラフを丁寧に書いて作成することができるようにする。	不本意なことやうまくいかないことに対し、折り合いをつけながら取り組む。
J	課題に最後まで取り組むことができるようにする。	活動に参加できる場面を増やす。 自分の思いを素直に伝える。

5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	表とグラフについて知ろう (知識及び技能)	1時間
2	さまざまな種類のグラフから読み取ろう (思考力、判断力、表現力等)	3時間
3	アンケートから表やグラフを作ろう (思考力、判断力、表現力等) (学びに向かう力、人間性等)	3時間 (本時2/3)

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」について

表やグラフに表す事象について、生徒にとって身近で興味関心のある事柄を扱うこととした。また、生徒が調査研究の名称やグループ名を考えたり、生徒がデータを収集するために、他の生徒や教師の協力を仰ぎアンケート調査をしたりすることで、主体的、意欲的に学習に向かうことができるようにする。本題材に関する個人目標を具体的に示し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。

「対話的な学び」について

グループ学習を取り入れ、どんなデータを集めるか、集めたデータをどう処理するか、どんなデザインの表やグラフにするかなどを話し合えるようにする。また、どんなグラフができあがったかという結果だけでなく、どう取り組んだかという過程に目を向けるように促すために、称賛したり助言したりする。その中で、コミュニケーションや人間関係形成に関する個人の実態を踏まえ、個々に合った指導や支援を行う。

「深い学び」について

適切な表やグラフを作成するためには、データ（数値）から、縦軸と横軸をどう構成していくかが重要である。表やグラフとしての適切さが学びの評価の対象となる。自ら作成したり、他者のものと比べたりする活動を通し、より適切なグラフはどのようなものか、その理由は何か、数学的な見方・考え方で考察する。生徒が考えたことを認めながら深い学びにつなげていきたい。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

	本時に関する目標
共通目標	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考力、判断力、表現力等) グループで協力して話し合いをしながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学びに向かう力、人間性等)
A	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーに自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
B	アンケート結果を分類整理する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーに、少しでも自分の意志を伝えながら表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
C	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーの考えを聞き、受け入れながら表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
D	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーに自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
E	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーの考えをまとめる発言も交えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
F	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーと落ち着いて話し、自分の考えを前向きな言葉で伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
G	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) 相手の方を見て自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
H	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループで協力して話し合いをしながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
I	アンケート結果を基に、表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループのメンバーに自分の考えを適切な言葉遣いで伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成する。(学び、人間性等)
J	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成する。(思考、判断、表現等) グループでの活動に参加することができる。(学び、人間性等)

(2) 展開

時間	学習活動(生徒の活動)	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
導入 5分	○挨拶 日直が号令をかける ○前回までの復習 前回までの学習内容を振り返る	●日直に号令の挨拶をする。 ※始まりを意識できるようにする。 ●前回までの学習内容を確認する。 ※5種類のグラフについて学習したこと、前回はアンケートを作成したことを思い出せるようにする。	
展開 40分	○本時の内容(課題)を知る ○グループ毎に座席を移動する ○課題の取り組み方の説明を聞き、取り組み方を知る ○グループで課題に取り組む ○表やグラフを見て、考えたことをまとめる	●本時の内容を説明する。 「グループで、アンケート結果をまとめる」 ●前回作ったグループになるように机を移動するように伝える。 ※移動した後も教員の説明が聞きやすいよう姿勢や身体の向きを整えるよう促す。 ●見本を示しながら、課題の取り組み方を説明する。 ●互いに声をかけ合い役割を分担し活動するよう促す。 【生徒C、Iに対して】姿勢が崩れていたら言葉がけをし、姿勢を正すことを意識できるようにする。 ●課題に取り組むように指示する。 ●プリントに表やグラフができたなら、教員に確認してから、模造紙に書くように促す。 ●困ったことがあったら、質問するように伝える。 ※適宜、個人やグループに対して、頑張っているところ、丁寧に取り組んでいるところを評価し、自信を持って取り組めるように配慮する。 【生徒Aに対して】グラフを書く際、端まで丁寧に線を引くことの重要性を確認し手元を見る意識付けを行う。 【生徒Dに対して】体調が悪そうな時は声をかけ、活動が継続できるか本人と確認する。 【生徒E、Fに対して】日常でよく使う平易な言葉を使い内容を説明する。 【生徒Gに対して】質問ができるように、近くに寄って視線を送ったり言葉がけをしたりして促す。 【生徒B、Hに対して】考えを伝えることに苦労している場合は、伝え方の例を示すなどする。 ●個人で、表やグラフを見て、分かったこと考えたことをプリントに記入するように伝える。 ●グループで意見交換をし、さらに、気が付いたことなど考えを記入するように伝える。 ※相手の話を正しい姿勢で聞けるように支援する。	・プリント(アンケート結果を表やグラフにまとめるメモ用) ・模造紙(表やグラフを拡大用) ※全体をとおし、場面の切り替わりを意識できるように言葉がけし、今やるべきことがわかるようにする。 ※必要に応じて気持ちをリフレッシュできるように、ストレッチ等を促す。
まとめ 5分	○本時の学習を振り返る ○次回の内容を知る ○挨拶 日直が号令をかける	●学習したことを踏まえていること、自分たちで話し合いながら表やグラフを作成することができたことを評価する。 ●次回は、アンケートの結果を作成した表やグラフを用いて発表することを伝える。 ●日直に号令の合図をする。 ※終わりを意識できるようにする。	

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

本時の評価	
共通	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループで協力して話し合いをしながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的に学習に取り組む態度)
A	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーに、はっきり、ゆっくりとした声で自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
B	アンケート結果を分類整理することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーに自分の意志を伝えながら、表やグラフを作成することができたか。(主体的)
C	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーの考えを聞き、受け入れながら表やグラフを作成することができたか。(主体的)
D	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーに、はっきり、ゆっくりとした声で自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
E	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーの考えをまとめる発言も交えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
F	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーと落ち着いて話し、自分の考えを前向きな言葉で伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
G	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) 相手の方を見て自分の考えを伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
H	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループで協力して話し合いをしながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
I	アンケート結果を基に、表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループのメンバーに自分の考えを適切な言葉遣いで伝えながら、工夫を加えた表やグラフを作成することができたか。(主体的)
J	アンケート結果を分類整理し、正しく表やグラフを作成することができたか。(思考・判断・表現) グループでの活動に参加することができたか。(主体的)

(2) 教師の指導の評価

ア 授業構成 (指導手順、時間配当、指導形態など)

- ・前回の授業の内容の振り返り、今回の学習の目標と見通しを得られるような場面を設定できたか。(主体的な学び)
- ・自分の考えを伝えたり、相手の意見を聴いたりしながら学習できる場面を設定できたか。(対話的な学び)
- ・グループ活動を通し、より適切なグラフはどのようなものか、その理由は何か、数学的な見方・考え方ができるような場面を設定できたか。(深い学び)

イ 教師による支援 (環境設定、教材教具の工夫など)

- ・自分の目標を生徒が常に意識し、それに向かって取り組めるような適切な視覚支援ができたか。(主体的な学び)
- ・生徒同士の話し合いの際に、生徒が発言できるよう、必要に応じて意見を引き出すような発問をして代弁したり、伝え方を助言したりできたか。(対話的な学び)
- ・他のグループが作成したグラフの良いところや、自分たちが作成したものの改善点に気付くことができるよう支援できたか。(深い学び)

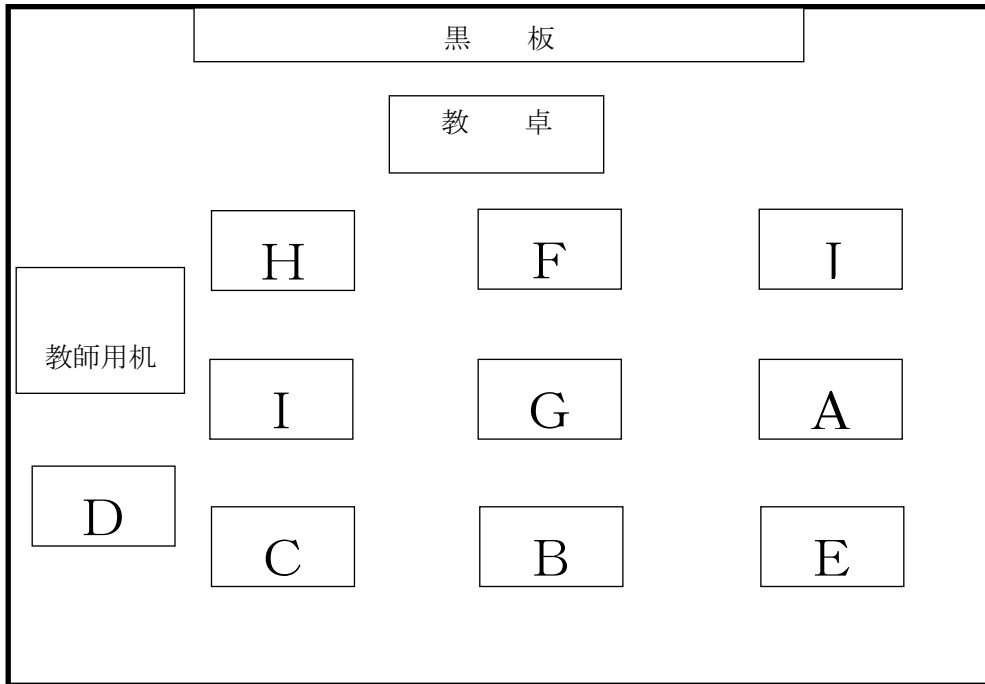
ウ 自由記述

授業に関して、気づいた点がありましたら記入の上、授業者に提出して下さい。

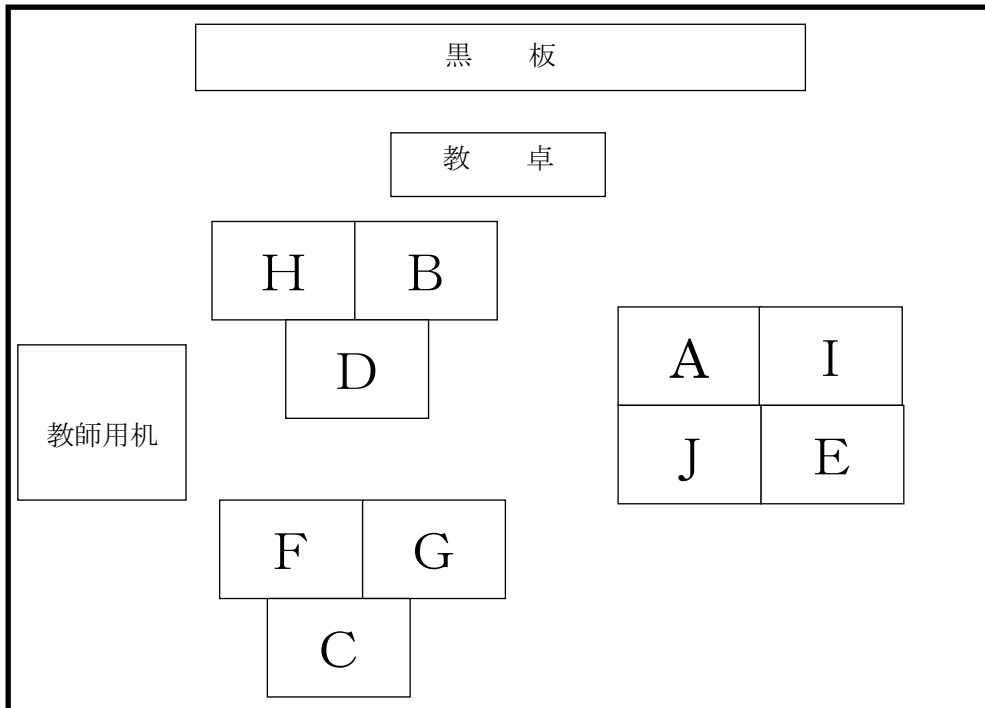
9 備考

・教室内配置図 座席配置図

授業開始時



グループ活動時



第2節 各教科の実践事例 「流通・サービス（事務）」

1 年間指導計画

学習目標	学習内容	目標	時数	評価												
<ul style="list-style-type: none"> ・安全に働く上で必要な基礎的な知識・技術を身につける。(知識及び技能) ・自分の役割に責任を持ち、仲間と協力しながら作業に取り組む力を身につける。(思考力、判断力、表現力等) ・丁寧で正確な仕事を粘り強く行いながら、働くための基本的な態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等) 																
前期	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・授業の流れとルールの理解 ・身だしなみチェック ・チームオフィスの約束の理解 ・日誌の書き方 ○基本的な事務作業 【事務機器を使用しない学習】 ・計数 ・丁合 ・三つ折り・封入と封緘 (糊付け、シール貼り) ・製本 (ステープラー止め、2穴パンチ) ・スタンプ ・ポストイキングなど ○受注作業 ・丁合、製本、封入、封緘など ○アビリンピックに向けた学習 ・競技課題練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務作業に関わる道具の安全な使い方や基礎的な技術を身につけることができる。(知識及び技能) ・わからないことはそのままにせず、質問や確認をすることができる。(思考力、判断力、表現力等) ・身だしなみや礼儀など、場にふさわしい態度で学習する。(思考力、判断力、表現力等) ・主体的に作業する意識を高める。(学びに向かう力、人間性等) <p>【主な受注作業】P=ポストイキング F=ファイリング</p> <table border="1"> <tr><td>生徒総会資料</td><td>丁合・製本・P</td></tr> <tr><td>体育祭プログラム</td><td>折・P</td></tr> <tr><td>体育祭実施要項</td><td>丁合・折・製本・P</td></tr> <tr><td>雇用セミナー資料</td><td>丁合・製本・封入</td></tr> <tr><td>雇用セミナー関連</td><td>名刺 F</td></tr> <tr><td>(外部)企業チラシ</td><td>丁合・封入・封緘</td></tr> </table>	生徒総会資料	丁合・製本・P	体育祭プログラム	折・P	体育祭実施要項	丁合・折・製本・P	雇用セミナー資料	丁合・製本・封入	雇用セミナー関連	名刺 F	(外部)企業チラシ	丁合・封入・封緘	132	
生徒総会資料	丁合・製本・P															
体育祭プログラム	折・P															
体育祭実施要項	丁合・折・製本・P															
雇用セミナー資料	丁合・製本・封入															
雇用セミナー関連	名刺 F															
(外部)企業チラシ	丁合・封入・封緘															
後期	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な事務作業 【事務機器を使用した学習】 ・印刷(片面、両面、拡大、縮小) ・コンピュータ入力(データ入力、名刺作成練習) ・裁断機(裁断、切り取り線) ・納品 ・シュレッダー(情報セキュリティ) ・ラベルシールなど ○受注作業 ・各種印刷物の取り扱いなど ○販売学習 ・接客マナー ・販売製品の理解 ・レジ操作など ○学校行事補助 ・受付 ・資料の配布 ・案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事務作業工程の理解を深める。(知識及び技能) ・見通しを持って安全、正確、丁寧に作業に取り組むことができる。(思考力、判断力、表現力等) ・身だしなみや言葉づかいなど、場にふさわしい態度で学習する。(思考力、判断力、表現力等) ・仲間や担当者とのコミュニケーションを図りながら作業できる。(学びに向かう力、人間性等) <p>【主な受注作業】P=ポストイキング</p> <table border="1"> <tr><td>各種「○○だより」</td><td>印刷・P</td></tr> <tr><td>雇用セミナー関連</td><td>印刷・丁合・製本</td></tr> <tr><td>職員分 名刺作成</td><td>入力・印刷・カット</td></tr> <tr><td>学校説明会資料など</td><td>印刷・丁合・製本</td></tr> <tr><td>(外部)企業チラシ</td><td>丁合・封入・封緘</td></tr> <tr><td>各種通知文など</td><td>印刷・切取線カット・P</td></tr> </table>	各種「○○だより」	印刷・P	雇用セミナー関連	印刷・丁合・製本	職員分 名刺作成	入力・印刷・カット	学校説明会資料など	印刷・丁合・製本	(外部)企業チラシ	丁合・封入・封緘	各種通知文など	印刷・切取線カット・P	130.5	
各種「○○だより」	印刷・P															
雇用セミナー関連	印刷・丁合・製本															
職員分 名刺作成	入力・印刷・カット															
学校説明会資料など	印刷・丁合・製本															
(外部)企業チラシ	丁合・封入・封緘															
各種通知文など	印刷・切取線カット・P															

専門教科15時間/週、清掃(7.5時間)、事務(7.5時間)とする。

2 本指導案

高等部 流通・サービス科1年 教科別の指導「流通・サービス（事務）」学習指導案

日 時 令和〇〇年〇月〇〇日（〇）
第1校時～第6校時
場 所 オフィスサポート室
指導者 〇〇（T1） 〇〇（T2）
〇〇（T3）

1 題材名「体育祭実施要項の製本をしよう」

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

流通・サービス科では3年間でメンテナンスコース（校内外の清掃）、オフィスサポートコース（事務、物流、販売）の両コースの学習をする。流通・サービス科1年は、課題によるグループ分けをせずクラス単位で指導を行っており、〇組男子10名で構成されている。生徒は比較的軽度の知的障害があり、広汎性発達障害や両耳中度難聴を併せ有する者も在籍している。

一人一人の実態は、作業の正確性やスピード、持続力などに大きな差があるが、理解や技術の習得に時間はかかるがあきらめずに取り組む生徒もいる。また、周囲の音や印刷物の内容に反応してしまう生徒、他者との適切な距離感が分からず相手に不快な思いをさせてしまう生徒がおり、取り組み方やコミュニケーション面への支援や配慮が必要である。

これらの多様な個性がある生徒たちは、多少のトラブルはあるものの徐々に関係性を築き、学校生活に意欲的に取り組んでいる。同じ題材に取り組みながら特性に応じた教材の工夫を行い、作業の手順と方法を確実に身につけることが必要である。

(2) 題材観

オフィスサポートコースでは、事務作業補助の学習を行っている。受注内容や納品日に応じてコース内で分担し、1学年前期は「紙を正確に数える（計数）」「見本に従って順番に重ねる（丁合）」「綴じこむ（製本）」学習を中心に、事務作業の基礎・基本の習得を目指している。

本題材は製本作業2回目である。1回目の題材「生徒総会資料の製本」では意欲的に取り組んだが、枚数の過不足、ステープラーの不揃いなど、納品後に差し戻された冊子もあった。生徒と教員で仕上がりの質と取り組み方を振り返り、反省をした結果、「1枚ずつ丁合する。」「丁合後ダブルチェックを行う。」「整えてからステープラーをとめる。」「完了後の検品を行う。」に取り組むことにした。

そこで、作業手順が1回目とほぼ同じ「体育祭実施要項の製本」を担当することにした。本題材は、両面刷り全41ページ、印刷の向きや用紙サイズが異なるものや各種目の選手名簿や会場配置図が含まれており、難易度が高い。そこで、資料全体を分割し丁合と確認作業をしやすくした。ステープラーにテープで補助線を示し、止める位置を定めるための自助具も作製した。ステープラー止め練習も行い精度をあげることにした。

本題材は、どのように取り組んだら正確な作業ができるか、どのようにしたら仕上がりが均一で完成度が高くなるかを考える。そして前回の失敗から学んだことが、その後の取組への工夫や改善につながることを、チームで補完しながら取り組むことで更に良い仕事ができることに気づくことができるようにしたい。

なお、本題材は特別支援学校高等部学習指導要領の各教科（知的障害）「流通・サービス」の目標を踏まえ、指導項目（5）イを取り扱う。

(3) 指導観

本校は、働くために必要な力を身につける学習を中心に行う特別支援学校である。

オフィスサポートコースでは、コンピュータ入力などの個人作業、製本などの集団作業、学校行事の受付、案内などの接客業務と幅広い学習に取り組むことで、一人一人得意分野が異なることを知り、互いの良さを生かし認めあう学習環境を作っている。本題材では、入学後間もない1年生だからこそ、知識・技能と取り組む姿勢の基礎を身につけること、仲間と試行錯誤しながら力を合わせることの達成感を味わうことを大切にしたい。

事務作業の学習は、作業そのものの華やかさは少ないかもしれないが、「サービスの提供」をとおして、自分たちの仕事が必要とされていることや、役に立っていることを実感できるような授業づくりを行いたい。オフィスサポートコースの行動指針を「チームオフィス5つの約束」として示し、「縁の下の力持ち」になって働くことが大切なことだと気づくことができるように促し、自分の仕事が社会や人とつながり、いろいろな場面で役に立っていることを想像し、社会の一員としての自己を意識できるようにしたい。

3 生徒の実態

氏名 (記号)	生活全般の実態	題材に関する実態
・	・	・
G	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも積極的で、自分から様々な役割を引き受けるが、自身の許容量を超えてしまうことがある。 ・指示に従って行動できるが、注意がそれると忘れてしまうことがある。 ・漢字の読み書きと文の組み立てが苦手で、日誌や連絡帳は短文やひらがなで書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計数は、気持ちが焦ると難しくなることもあるが、声を出して数を確かめながら取り組むことができる。 ・同じ作業を繰り返すと手が止まりぼんやりすることがあるため役割を変えることで集中を保つことができる。 ・表裏の弁別が苦手であることを理解し、すぐに質問し調整することができる。
・	・	・
J	<ul style="list-style-type: none"> ・内向的で自分の気持ちを抑えがちであるが、慣れてくると少しずつ話すことができる。 ・提出物や物の管理、身だしなみに課題があるが、言葉かけするとその場で直すことができる。 ・書き間違いや字形のアンバランスさがあり、文字を書くことに苦手意識を持ち、ノートを人から見られないようにすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用紙の束を持って数えることは苦手だが、やりやすい枚数に分けて数えるなど工夫することができる。 ・丁合では、ゆっくりではあるが、1枚ずつ確実に印刷物を取り正確に取り組みめる。 ・周囲の動きを見て、効率よく作業しようとする工夫は見られる。

4 題材構成

(1) 共通目標

- ・見本に従って、丁寧で正確な作業ができる。(知識及び技能)
- ・自分の役割に責任を持ち、わからないことを質問や確認することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・仲間への声かけと協力をしながら、積極的に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 個人目標

氏名 (記号)	題材に関する目標	支援プランBの目標
・	・	・
G	<ul style="list-style-type: none"> ・自助具を使い、正確な作業をする。 ・集中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を丁寧に速く書くことができる。 ・集団での作業を正確に行うことができる。
・	・	・
J	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順を覚える。 ・自分から質問や確認、報告できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や報告、連絡などのコミュニケーションをとることができる。 ・荷物の整理整頓や身だしなみを整えることができる。 ・字形を整え、読みやすい字を書くことができる。

5 指導計画 (18時間扱い 6時間×3回)

	授業内容	授業時数
1	完成度の高い製本をするための話し合いをしよう	3
	適切な位置にステープラーをとめよう	3
2	体育祭実施要項の製本をしよう (丁合、外三つ折り)	6
	体育祭実施要項の製本をしよう (丁合～製本)	6 (本時)

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」につなげるために、授業の導入で本時の目標とオフィスサポートの行動指針との関連を確認する。本時の授業とコースの学習の学びのつながりを理解することで、自分の将来像を想像できるようにし、将来の自分とのつながりを、興味と真実味を持って学習に取り組めるようにする。「対話的な学び」につなげるために、「失敗が続いたらどうなるのか」を個人で考え、チームで意見を交換する。そして、仕事に取り組む態度などの考え方の幅を広げつつも、誰にでも失敗や間違えてしまうことがあるからこそ、声をかけ合い確認することの重要性も学ぶことができるようにし、「失敗から何を学ぶか」を考える。さらに、社会の出来事にも関心を向け、社会人としての責任についても議論する。これらの学習を通し、将来にわたって信頼される仕事をしたいと感じる深い学びを創造できるような授業づくりを行っていききたい。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> 資料の違いに注目し正確な丁合をする。(知識及び技能) ステープラーガイドを使って丁寧に製本をする。(知識及び技能) 間違いや失敗に気づき報告する。(思考力、判断力、表現力等) 「お願いします」「失礼しました」の言葉の使用と協力することを意識して作業する。(学びに向かう力、人間性等)
G	<ul style="list-style-type: none"> ステープラーガイドの使い方に慣れ、同じ位置で綴じ続けることができる。(知識及び技能)
J	<ul style="list-style-type: none"> そばにいる教師に、挙手や合図などをして報告や質問ができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

配時	学習内容 (生徒の活動)	支援の手立て○教師の指導 ●指導上の留意点	備考
15分	<p>1 集合 (学科全体) ラジオ体操 出欠確認 連絡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 正しい立位姿勢を保つ 相手に身体を向け、目を見て話を聞く </div>	<p>○係の生徒に、音楽プレーヤーを準備し、始業のチャイムに合わせて体操を行うよう促す。道具持ち出し、片付けの確認 (T 2)</p> <p>○学校行事や外部来校者の予定など、全体に関わる連絡を行う。 ●委員会活動や実習打合せなどで授業を抜ける生徒は、挙手し報告するよう促す。</p>	○日程、学習内容は、授業開始前に板書する。
15分	<p>2 移動、準備 身だしなみチェック 作業日誌記入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 予定の把握をする 技能面、行動面の個人目標を書く </div>	<p>○身だしなみチェック後、その場で改善するか、次回整えるか確認する。(T 1、T 2、T 3)</p> <p>○記入時間の目安を知らせる。 ○記入に時間がかかる生徒への支援を行う。 ●板書の朱書き部分のみを日誌に記入するように伝える。 ●日誌の記入方法への理解が困難な時は、記入場所を伝える。 ●目標設定が難しい生徒については、全体目標や前回の個人目標を参考にするようにする。</p>	
20分	<p>3 朝礼 ・号令 ・作業の約束唱和</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>チームオフィス5つの約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 信頼 ミスをなくし、責任ある正確な仕事をします。 完成度 使う人の気持ちを想い、ていねいな仕事をします。 意欲 何事にも挑戦し、進んで仕事をします。 効率 安全と整理整頓を心がけ、見通しを持って仕事をします。 協力 声をかけ合い、支え合って仕事をします。 </div>		○朝礼カードには全てルビをふっておく。
5分	<p>4 作業準備 ・手洗い ・作業台整理 ・台拭き</p>	<p>○1日の流れを端的に伝える。 ○全体目標を「チームオフィス5つの約束」とのつながりに気づくように説明する。 ○個人目標は、挙手してから発表すること、個人目標を複数記入した時はいずれか1つ選択できるように促す。</p> <p>●作業に必要な道具とその保管場所を知らせ、分担、協力しながら効率よく準備できるようにする。</p>	

50分	<p>5 トレーニング 「ステープラー止め」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗例振り返り ・練習用紙を使った「止め練習」 <ul style="list-style-type: none"> ・練習と確認 ・調整 ・自己チェック <p>・自助具を使った「綴じ練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習と確認 ・調整 ・自己チェック <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・指定された位置を止める ・ずれや傾きの癖に気づく ・ガイドの使い方を覚える ・針の補充やはずし方、処理の仕方を知る </div>	<p>○前回の製本作業の差し戻しを提示し、不良箇所の確認と、前回の授業で話し合った改善の方策を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●握り方や親指の位置、手首の力加減などを調整しながら取り組むようにする。 ●教師によるチェックは、止め方の癖や傾向に気づけるようにし、調整の過程を評価するようにする。 ●チェック、調整を何度か行ったら、生徒が自己チェックし、どの止め方が合格か主体的に判断できるようにする。 <p>○個々の合格ラインを達成したら大きく「合格」サインを記入する。</p> <p>○自助具（ステープラーガイド）と印刷物の合わせ方を作業台毎に示し、理解しやすいようにする。</p> <p>○印刷物は整え、ずれがないことを確認してから綴じのことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●印刷物の整え方がぎこちない時は、印刷物を身体の正面に置く、手の位置を真ん中にするなど具体的に伝える。(A J) ●ガイドを使用することに加え、ステープラー位置の目安（端から5ミリ程度が良い）を知らせ、理解を促す。(C H I) ●2か所止めの書類は、先に止めたステープラーの位置を基準に、もう一方をバランスよく止めると良いと知らせる。(G) 	○練習は、裏紙を使用																				
10分	6 休憩 ○手洗い	○他の教室は授業中であることを確認し、教室内や廊下での過ごし方に留意するよう促す。																					
105分	<p>7 受注作業 「丁合・製本作業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○台拭き、道具の準備 ○役割分担の確認 ○作業の注意点 ○進捗状況の確認 ○丁合順確認 <p><主な作業分担></p> <table border="1" data-bbox="247 1361 614 1809"> <thead> <tr> <th>A J</th> <th>C D I</th> <th>B G H</th> <th>E F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①丁合</td> <td>①丁合</td> <td>①丁合</td> <td>①丁合</td> </tr> <tr> <td>②ダブル チェック</td> <td>③トリプル チェック</td> <td>④綴じ 込み</td> <td>④綴じ 込み</td> </tr> <tr> <td>⑤検品</td> <td>⑥計数</td> <td>⑦直し 検品</td> <td>⑧納品</td> </tr> <tr> <td>⑨片付 け</td> <td>⑨片付 け</td> <td></td> <td>⑨片付 け</td> </tr> </tbody> </table> <p>○作業開始 ①丁合（A～J）</p>	A J	C D I	B G H	E F	①丁合	①丁合	①丁合	①丁合	②ダブル チェック	③トリプル チェック	④綴じ 込み	④綴じ 込み	⑤検品	⑥計数	⑦直し 検品	⑧納品	⑨片付 け	⑨片付 け		⑨片付 け	<p>○必要な道具と保管場所を知らせ、生徒同士が言葉を掛け合いながら声かけしながら準備できるようにする。</p> <p>○作業台にステープラーの針などが残らないよう気をつけながら台拭きをするよう指示をする。</p> <p>○焦らず、正確な作業をすることを優先させる。</p> <p>○役割分担は事前に知らせるが、作業の流れによって変更することがあると伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><授業における約束></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に伴う返事や完了報告や確認をする ・互いに声をかける ・「お願いします」「ありがとうございます」を進んで言う ・集中して取り組む </div> <p>○印刷物の持ち方、用紙の取り方見本を示してから丁合を始める。</p> <p>○丁合済みの印刷物保管場所を全員で確認する。綴じ込みのタイミングで生徒同士が声かけするよう促す。</p> <p>○丁合順を確認しながら、印刷物を机上に並べる。</p>	
A J	C D I	B G H	E F																				
①丁合	①丁合	①丁合	①丁合																				
②ダブル チェック	③トリプル チェック	④綴じ 込み	④綴じ 込み																				
⑤検品	⑥計数	⑦直し 検品	⑧納品																				
⑨片付 け	⑨片付 け		⑨片付 け																				

<p>②ダブルチェック (A J) ③トリプルチェック (C D I)</p>	<p>●重なった印刷物が取りやすくなるよう若干ずらしておく。 ●資料の下端を指先で持って丁合し、印刷物のインクが他に写らないよう促す。(A B F J) ●丁合の仕方にぎこちなさがある生徒は、抽出し印刷物の持ち方などを確認してから列に戻す。(A D F J) ○①丁合済みの資料は、A 3のトレイに下部をそろえ、一部ずつ井桁になるように重ね、資料が二重にならないようにする。 ○丁合済み資料がたまったら、適宜トレイを交換し、作業しやすいようにする。 ●集中力が途切れてきた様子があれば、作業から離れ、トレイ交換を行うなど気持ちを切り替えるようにする。(C E) ○間違いを発見した時の周知の仕方を示す。 「○○が2枚ありました。」「失礼しました。」</p>
<p>・1枚ずつ丁合されているか ・丁合順は正しいか ・印刷物に汚れや破れ、折れなどはないか</p>	
<p>★綴じ込み準備 ④綴じ込み (B E F G H) ・ガイドを使用したステープラー止め</p>	<p>○綴じ込み準備に必要な道具の声かけをする。 ●T 3は、机上の片付け、道具の準備が不十分な時には道具の保管場所を確認しながら準備できるようにする。 ○綴じ込み担当の生徒は、作業の区切りが良いタイミングで準備に入るよう促す。 ●資料がたまっていく可能性があるが、落ち着いて綴じ込みをするよう適宜声かけをする。(B G) ○報告は、直しが必要だと感じたもののみと伝える。 ●生徒検品後、必ず教師による検品も行う。</p>
<p>・綴じ込みをするための机上是片付いているか ・資料の向きは正しいか ・資料を揃えてからステープラーをとめているか ・合わせる資料の順番は正しいか</p>	
<p>⑤検品 (A J) ・冊子の点検</p>	<p>○10のまとまりで、井桁になるよう資料を重ね、計数確認がしやすいようにする。 ○検品で合格したもの、直しのものをそれぞれ計数する。</p>
<p>・資料を揃えた状態で綴じられているか ・ステープラーの位置は適切か ・ステープラーは裏側まで止まっているか</p>	
<p>⑥計数 (C D I) ・冊子の数を数える</p>	<p>○ステープラーはずしの使い方確認をしてから取り組む。 ○必要に応じて追加印刷を行う。 ●紙は破れてしまうことがあることを伝え、落ち着いて取り組むよう声かけをする。(B) ○直し作業を済ませたものは、再度検品する。</p>
<p>・10冊ずつ正確に重ねられているか ・検品合格数+直しが、納品数に達しているか</p>	
<p>⑦直し、検品 (B G H) ・ステープラー針はずし</p>	<p>○納品担当生徒とT 1は、注文書2人組で確認し、完成した冊子をトレイに入れる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・綴じ込み 	<ul style="list-style-type: none"> ●T 2は、正確に数え、ステープラー部分が一方に偏らないよう、10冊ずつ向きを変えて重ねる見本を示しながら納品準備ができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・止め直しによる修正は可能か ・綴じ込みの注意点を意識しながら取り組めるか 	
	<ul style="list-style-type: none"> ⑧納品準備 (B E F G H) ・注文書、納品書の確認 ・計数 	<ul style="list-style-type: none"> ○トレイ毎に、入数のメモを差し込む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・納品する冊数は正確か ・注文書どおりの納品方法になっているか 	
	<ul style="list-style-type: none"> ⑨片付け (A C D E F I J) ・道具片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○使用した道具は、協力し、効率よく片付けができるよう生徒同士が声かけするよう促す。 ○印刷物の残部処理方法を指示する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・使用した道具は、元の位置に戻っているか ・棚は整理整頓されているか ・机の上や下に置き忘れなどはないか ・作業中に壊れた道具などはあるか ・ステープラー針の補充は行ってあるか 	
45分	8 休憩	<ul style="list-style-type: none"> ○昼休憩をとる。 ○休憩中に手洗いを済ませ、始業5分前には戻り、午後の授業に備えるよう伝える。
55分	9 受注作業続き	<ul style="list-style-type: none"> ○午前中の活動の続きを行う。 ○T 1は全体に作業完了を全体に周知し、達成感を高める。
15分	10 片付け、掃除	<ul style="list-style-type: none"> ○役割分担された活動に取り組みつつ、生徒同士で確認し合いながら行うように伝える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・机を元の位置に戻す。 ・台ふき、掃き掃除 ダストクロスがけ 	
15分	11 日誌記入	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に対する自己評価、教師からのアドバイス、評価と反省は、具体的に記入するよう促す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌提出 (振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> ●根拠となる具体的な行動や態度について触れ、振り返りを促す。
20分	12 終礼	<ul style="list-style-type: none"> ○全員に伝わるような話し方 (声量、速さ) で発表できるよう助言する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の成果 ・感想発表 ・各担当者より ・終わりの号令 	

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・正しい順番で、正確に丁合しよう意識し取り組むことができたか。(知識・技能)
- ・ステープラーガイドの使い方を理解し、適切な位置に綴込みすることができたか。(知識・技能)
- ・ミスの報告をしたり、聞いたりすることで、注意するところを意識し取り組むことができたか。(思考・判断・表現)
- ・完成した冊子を見て、納品の可否を判断し相談することができたか。(思考・判断・表現)
- ・主体的に声をかけ、協力することができたか。(主体的に学習に取り組む態度)

・	・・・・・・・・
G	ステープラーガイドを使用し、綴込み作業を適切な位置と向きで行うことができていたか。
・	・・・・・・・・
J	近くにいる教員に、自分から報告や質問することができたか。

(2) 教師の指導の評価

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

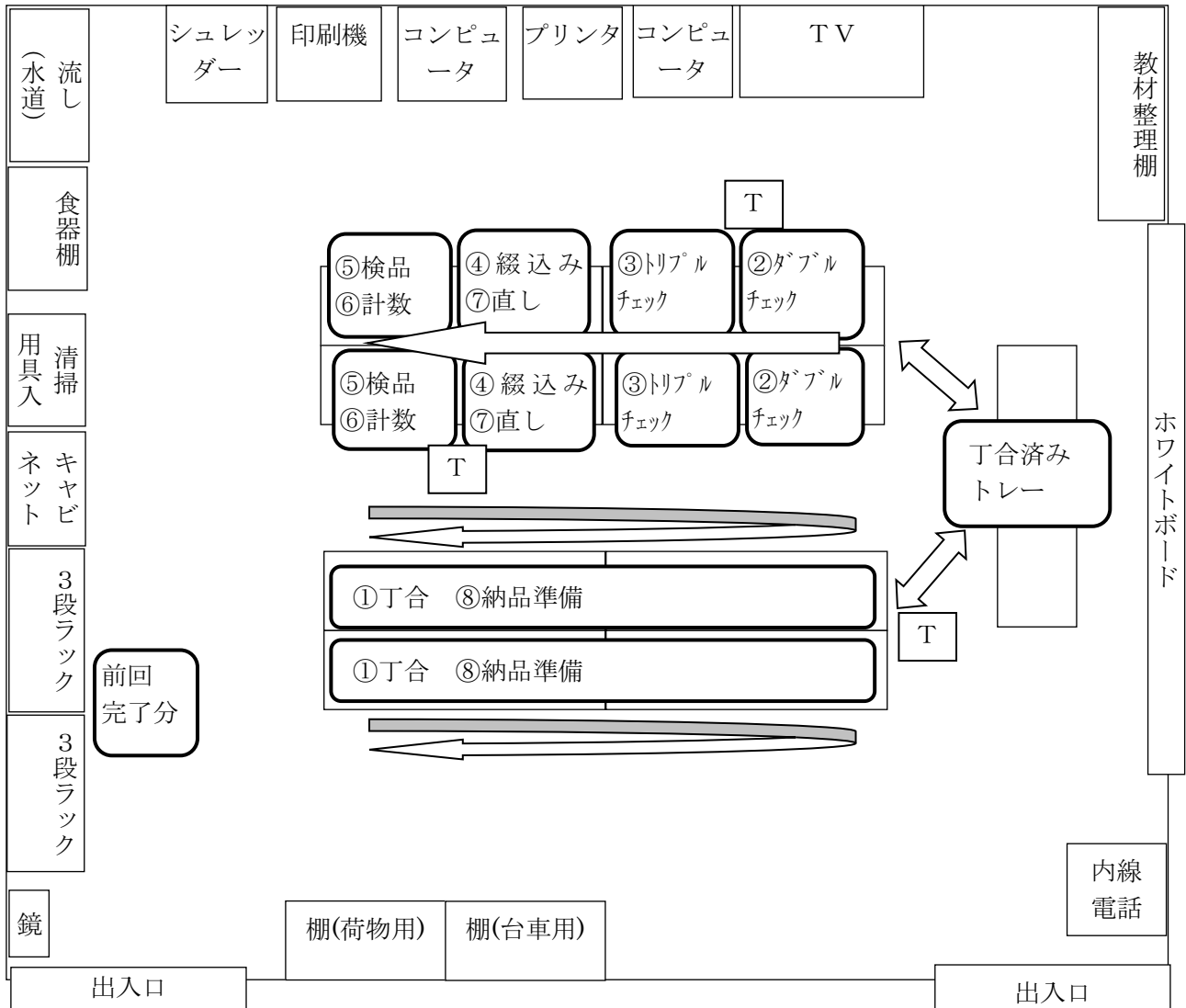
- ・目標を理解し、授業への興味と見通しを持って取り組むことができるように、生徒が進捗状況の確認や振り返ることができる場面を設定することができたか。（主体的な学び）
- ・他者と一緒に考え、判断をすることができるような、やりとりや相談をするような場面を設定できたか。（対話的な学び）

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・生徒が授業の流れや取組方を理解し今後の授業に生かそうとすることができるように、具体的な見本を示し端的な指示をすることができたか。（主体的な学び）
- ・活動の中で自分から言葉をかけたり仲間と協力したりする場面を設定できたか。（対話的な学び）

9 備考

(1) 教室および教具配置図



(2) 使用教材、教具

ア トレーニング

ステープラー止め練習用紙、ステープラーガイド、裏紙、ステープラー、はさみ、ステープラーはずし、ステープラー針、針入れ、A4トレー

イ 受注作業

完成見本、印刷物、トレー（A4、A3）、確認カード（丁合済み・ダブルチェック・トリプルチェック）、ステープラー、ステープラーガイド、ステープラー針、ステープラーはずし、指サック、定規

3 略指導案

高等部 教科別の指導「流通・サービス（事務）」学習指導案

1 題材名「正確な三つ折り作業をしよう」

2 日時 令和〇〇年〇月〇〇日（〇） 第3. 4校時 10：50～12：35

3 場所 オフィスサポート室

4 題材設定の理由

本題材は、生徒が主体的に自分に合った自助具を選定し作業に取り組むことによって、正確な作業ができるようになり、苦手意識の軽減や自尊感情を高めることを目的としている。また、人によって選択する自助具に違いがあることを知り、得手不得手をそれぞれにあった方法で補完することができることを学ぶ機会としたい。そこで本題材は、本校で開催される障害者雇用セミナーの案内文を企業宛に送付するにあたり、就労支援室より業務内容の一部を受注し学習の一環として行うこととした。

送付する資料が今後実習などでお世話になる企業へ届けられることを伝え、「正確な作業を通して、相手に対する丁寧な気持ちや大切に思う気持ちを伝えることができること」を学んでほしい。

5 指導計画（全6時間扱い）

- (1) 三つ折りの方法を学ぼう 2時間
- (2) 自分にあった自助具を選ぼう (本時) 2時間
- (3) 正確で丁寧な受注作業をしよう 2時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ・数種の自助具を使い比べ、自分に合った自助具を選ぶことで、より正確な作業ができるようになる実感と達成感を味わうことができる。(主体的な学び)
- ・他者と自助具を貸し借りするやり取りから、自己表現や他者理解をする。(対話的な学び)
- ・自分に合った自助具の選択ができることは、日常生活においても自分に合った支援を選択し受け入れることにつながることを知る学習の機会にすることができる。(深い学び)

7 本時の目標

- ・3種類の折り板を使い比べ、自分にあった自助具を選ぶことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・選んだ自助具を使って、正確な三つ折り作業ができる。(知識及び技能)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点（指導の手立て・評価の観点）	備考
10分	号令 前回の振り返り 本時の説明	○中央作業台に集合し、見やすい位置を確認する。 ○三つ折りの方法を示し、違いとポイントが確認できるようにする。 ○最も正確に作業できる方法を選択するよう伝える。	○折り板、練習用紙は1組のみ準備をしておく
10分	準備	○必要な道具を示し、互いに声かけしながら効率よい準備と、作業しやすい道具の配置を工夫するよう声かけする。	
30分	練習①	○比較や適切な自助具の選択が難しい生徒には、利き手の確認、手の位置や用紙の方向など、調整の仕方を示す。	○正確な仕上がりが確認する
	報告	○使いやすい折り板が決まり次第報告し、時間になるまで試行錯誤しながら練習するよう伝える。	○折り板の過不足も把握する。
5分	(休憩)		
15分	練習②	○合格基準を再度確認し、選択した方法と個人目標に合わせて練習する。 ○指定枚数を三つ折りし、合格を目指す。	

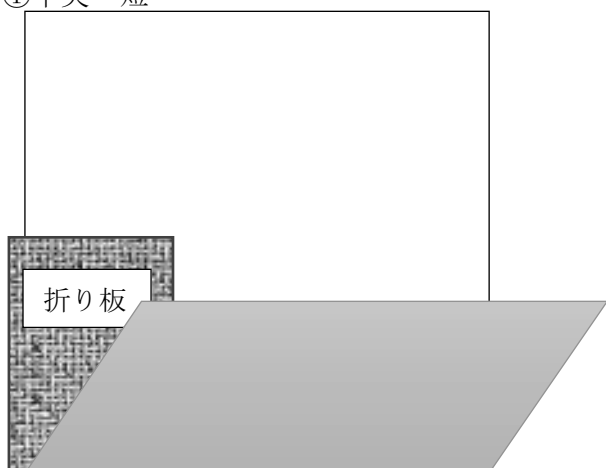
5分	検定	①時間をかけて丁寧に取り組む。 ②ミスの枚数を最小限に抑えるように取り組む。 ③正確さを保ちつつ、速度を意識して取り組む。	○ストップウォッチの準備
10分	検品	○教師による検品後、他の生徒が再度検品する。	○検品はMT、STが適宜行う。
10分	片付け	○次に使う人が使いやすいように、協力して片付ける。	
10分	振り返り 号令	○適切な自助具の把握は、メモするなど個人で行う。 ○各自が、受注作業に向けた目標設定を行うよう促す。	

9 準備物

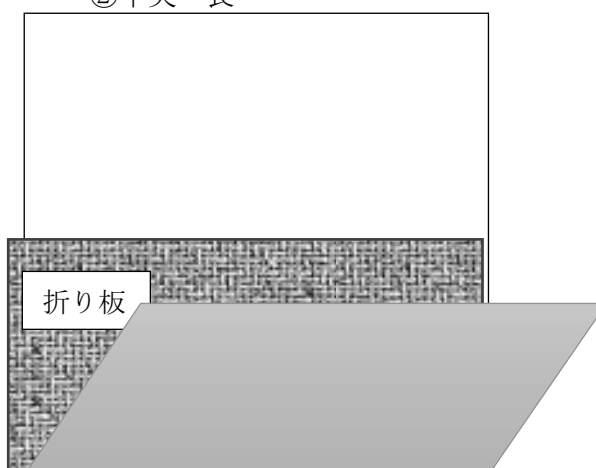
・折り板・練習用紙（裏紙）・折り板・トレー（大小）・ストップウォッチ・検品カード・手順書

<折り板 例>

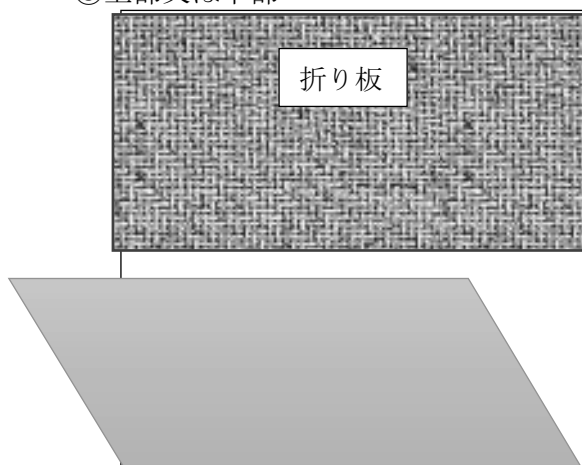
①中央・短



②中央・長



③上部又は下部



10 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・自助具を使い比べ、どの教具が自分に合っているのか試行錯誤することができたか。(思考・判断・表現)
- ・自分に合った自助具を使って練習し、作業の正確性を高めることができたか。(知識・技能)
- ・仲間とのやりとりをとおして、互いを認め合うことができたか。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

- ・生徒が適切な教材を選択できるよう、教材教具の工夫ができたか。(主体的な学び)
- ・準備する自助具の適切な数を調整し、他者とのやりとりが必然的に行えるような学習場面を設定できたか。(対話的な学び)
- ・自助具選びをとおして、支援を活用することによる成長を感じる場面を設定できたか。(深い学び)

第2節 自立活動指導の実践事例

1 自立活動の授業作り（流れ図）

生徒名	学部・学年	作成者
A	高等部 3年生	〇〇 〇〇

計画（PLAN）

実態把握①	情報収集	実態把握②－1 情報の整理
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 健康面には問題ない。 精神面の落ち込みから頭痛を訴えることがある。
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 明朗だが、悩み事があると行っていることが手につかなくなる。 現場実習が近づくと、感情のコントロールが難しくなる。
3 人間関係の形成 (人とかかわり、集団への参加など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 友だちに優しく、面倒見が良い。 小集団では率先して動き、仲間と協力できる。
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 周囲の状況を感じ取り、自分の気持ちを抑えてしてしまう。 英語に苦手意識がある。
5 身体の動き (運動・動作、作業面など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 身体を動かすことが好きで、特に長距離走が得意である。 長時間の姿勢保持が難しく、学習に影響することがある。
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 人懐っこく、積極的に人と関わることができる。 相手の気持ちを考えずに自分の意見を主張してしまう。
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など) (追加)		<ul style="list-style-type: none"> 性格は明るく活発だが、集中力が続かず飽きっぽい。 勉強ができるようになりたいという気持ちがある。

実態把握②－2 生徒の学習上又は生活上の課題や、これまでの学習状況の把握

- 相手の気持ちを考えて発言をすること。コミュニケーションが上手くいかず友人とトラブルになる。
- 集中を持続させることが難しく集中が途切れると、離席したりトイレなどに行きたがったりする。

実態把握②－3 生徒の3年後の将来像

- 場面に応じた発言ができて、円滑な人間関係を築けている。(人)(コ)
- 休む時は休む、働くときは集中して働くなど仕事にメリハリをつけて欲しい。(心)(健)

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出

- 相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちを発言内容に気を付けて相手に伝えること。(人)(コ)
- 集中力が途切れた時の離席などをなくし、姿勢保持を意識すること。(心)(健)

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題

中心的な課題	背景
① 場面を考えて、発言内容の伝え方を工夫する。	友だちと積極的にかかわりたいという気持ちはあるが、自分の気持ちを伝えられず理解されないことにイライラしてしまう。
② 苦手意識への克服の仕方を知る。	一度苦手意識を持つと「がんばってもできない」「苦手なことはやらなくていい」と考えてしまう。

指導目標の設定⑤

- ① 様々な活動をとおして相手の気持ちや状況を考えたり、自分の気持ちを伝えたりする機会を増やす。
- ② 自分の得意な作業を集中して行い、行った成果を認められる経験を積み、達成感や肯定感を育む。
- ③ 苦手な作業は短く時間を区切るなど、集中できる時間が増えるように指導する。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	情緒の安定に関する事。	他者とのかかわりの基礎に関する事。	保有する感覚の活用に関する事。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	状況の理解と変化への対応に関する事。	他者の意図や感情の理解に関する事。	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	言語の受容と表出に関する事。
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	自己の理解と行動の調整に関する事。	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	日常生活に必要な基本動作に関する事。	言語の形成と活用に関する事。
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		集団への参加の基礎に関する事。	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	身体の移動能力に関する事。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	状況に応じたコミュニケーションに関する事。
Key words	自分の苦手な作業を知る	見通しの持てない不安	リーダーシップがある	相手の気持ち	時と場に応じた姿勢の保持	意見のやり取り

指導内容	仲間と意見を交わしながら、一つの意見にまとめていく経験を増やす。	自分の得意な事をまとめる活動をとおして自己肯定感を高める。(グループのリーダーを任せるなど)	作業手順の段取りの付け方を指導する。段取りによって作業に取り組むことで、作業に見通しをもってできるようにする。
指導場面	・全教科 ・学校生活全般を通じて	・専門教科、自立活動	・専門教科

項目と項目を関連付ける際のポイント

- ① 人をまとめることが得意な人間関係の形成と、自分の気持ちを伝える力を高めることとを関連づける。
- ② 自分の得手不得手を理解し作業に集中することと、成功体験による心理的な安定とを関連させる。

2 本指導案

職業学科 3 学年〇組 自立活動指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）
 第 6 時 14：30～15：20
 場 所 3 年〇組教室
 指導者 〇〇 〇〇（T1）

1 主題名 「みんなで答えを合わせよう」

2 主題設定の理由

(1) 生徒観

本校は普通科と職業学科が併設されている特別支援学校であり、職業学科の生徒のほとんどは主たる障害が知的障害で、その他に自閉症スペクトラムや注意欠陥多動症などの発達障害や、ダウン症、精神障害などを併せ有する生徒も多数在籍している。しかし障害が軽度の為、多くの生徒が言語での指示理解及び会話が可能である。

本クラスは、男子6名、女子2名で構成されている。生徒の中には興味ある分野について幅広い知識を有している生徒もいるが、内容は理解できていなくても「わかりました」と答えてしまう生徒や、視覚的な支援などの合理的配慮をすることで授業が理解しやすい生徒も多い。そのため、自立活動によって個々の学習上の困難を克服できるような活動が必要である。また本クラスは基本的にお互いを尊重し協力して活動に取り組めるクラスではあるが、生徒の中には集団の中では意見が言えない生徒、逆に自分の意見を主張しすぎてしまい他者の意見を聞けない生徒など「人間関係の形成」や「コミュニケーション」面での困難を抱える生徒も在籍している。そのため、本校では卒業後の進路に不安を覚えている生徒も多い。自分の意見を正確に伝え、他者を慮るといふ力を身に付けていく必要があるため集団学習の形をとって行う。

(2) 題材観

年間の計画では自分の事をよく理解し、相手のことも理解しながらお互いを尊重できる人間関係の形成を目指している。主な活動は自分の課題を考え行う個別の活動と、ゲームやスポーツ、ロールプレイ、ディベートなど小集団を組織して行う活動がある。この中でコミュニケーション、身体の動き、環境の把握などに関する事を学習した。本題材ではゲームをとおして「言語を使わないで相手に伝える」「コミュニケーションを取りながら意見を合わせる」「話し合いで内容を深める」という「人間関係の形成」や「コミュニケーション」という自立活動の課題に取り組む。この授業に先立ち、前回の授業では非言語であるジェスチャーで情報を伝える活動を行った。この授業をとおして言葉を使わずに相手に何かを伝えることの難しさや、逆に言語を使わなくても情報を伝えることができることを学習した。本授業では題材について話し合い、仲間の答えを予想しながら全員で答えを合わせていくという活動を行う。この活動をとおして自分の意見をわかりやすく説明するというコミュニケーションと、相手の意見を汲むという人間関係の形成を学ぶ。また仲間とともに同じ答えにたどり着いたという達成感を得て、クラス内に望ましい人間関係が形成されることも期待する。

(3) 指導観

本校の職業学科の生徒は言語による指示理解はできるが、語彙が乏しく相手の気持ちを考えずに発言してしまったり、相手の言ったことを一義的にとらえてしまったりしてトラブルが起こることがある。そこで、本授業の中で最も大事にしたいのは、話し合いの目的が、自分の意見を仲間に認めさせることではなく、色々な意見をまとめて最終的に合意形成をしていくことであるという点である。このため仲間の意見を尊重しつつ自分の意見も表明していくことや、協力してより良い意見を作り上げていくような関係を築く経験は、今後の生徒達の「人間関係の形成」に役に立っていくと感じる。次に大事にしたいのが、生徒がこの活動をとおして円滑にコミュニケーションを図るといふ成功体験を積み重ねていくことである。知的障害のある生徒の中には他人の気持ちを慮ることが苦手でコミュニケーションの失敗体験を重ねてきた生徒も多い。本題材をとおしてコミュニケーションを構成する要素が言語だけではなく、表情や身振り手振り、話し方など色々な要素で構成されていることを学習する。この活動をとおして相手に「わかりやすく伝える」こと、相手が「何を伝えようとしているのか」を正しく読み取ることを経験してほしい。

本授業は実態に近い生徒をグループに分け小集団で行う。本グループは学習面や作業面では高い能力があるが、個々にコミュニケーション面での課題がある生徒達のグループである。

3 生徒の実態

名前	生活全般での実態	題材に関する自立活動における実態
A	<ul style="list-style-type: none"> 知識が豊富でリーダー的存在である。 相手の状況を考えずに自分の話をしてしまう。 集中力が続かないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなをまとめることができ、活動の進行などが上手にできる。 自分の意見を通そうとする。
B	<ul style="list-style-type: none"> 人懐っこいが、人との距離が近い。 姿勢の保持が難しく疲れやすい。 自分の感情をコントロールすることが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいことが好きで、盛り上がりすぎて、脱線してしまうことがある。 相手の気持ちを考えずに発言してしまう。
C	<ul style="list-style-type: none"> 自分になかなか自信がもてない。 不安なことをたくさん質問してしまう。 単純な指示は理解でき一生懸命に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自信が持てずに自分の好きなものを答える際でも、答えを教師に確認してしまう。 自分一人で答えを決めにくい。
D	<ul style="list-style-type: none"> 明るい性格で、誰に対しても分け隔てなく接することができ、面倒見もよい。 落ち着きがなく、気分の上下が激しい。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップを取りながら仲間の話を聞き、まとめて答えを出すことができる。 語彙が少なく気持ちをうまく伝えられない。
E	<ul style="list-style-type: none"> やさしい性格だが物事に固執する面がある。 何事にも積極的に取り組むことができ、最後まで責任をもって作業を成し遂げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況を考えて、その場に合った発言ができる。 仲間との円滑なコミュニケーションは苦手である。

4 目標

(1) 共通目標

- 仲間と協力し、ルールを理解して活動をおこなう。
- 言語や身振りを用いて意思疎通を行うなどコミュニケーションをとる。

(2) 個人目標

A	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となって、その活動の意図を周囲に伝えていく。 自分ばかりが発言するのではなく、周囲の発言も促す。
B	<ul style="list-style-type: none"> 活動のルールに沿った発言ができるようになる。 相手の気持ちを考えて、相手が不快な気分にならないように話す。
C	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持ってクラスメイトに関わっていく。 相手の意見を受け入れるばかりではなく、自分の意見も伝える。
D	<ul style="list-style-type: none"> みんなの意見を聞き、小集団の意見をまとめる。 どのようにコミュニケーションを取れば、自分の気持ちがうまく相手に伝わるかを考える。
E	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となって、その活動の意図を周囲に伝えていく。 相手の気持ちを考え、相手が不快な気分にならないように話す。

5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	「ことばを使わないで相手に伝えよう」ジェスチャーで伝える練習。	1
2	「みんなで合わせよう」ゲームをとおしてコミュニケーションを取る練習。	1(本時)
3	「話し合いをしてみよう」身近な話題をみんなで話して、考えを共有する練習。	2

6 本時の構成

(1) 本時の目標

ア 共通目標

- 自分から主体的に仲間とかかわりを持ってゲームを行う。
- チームメイトと協力し、言語や非言語などの手段を使って相手に自分の言いたいことを伝える。

イ 個人目標

A	<ul style="list-style-type: none"> 中心となってゲームを進める。 自分ばかりが発言するのではなく、周囲の発言も促す。
B	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム内容に関係のある発言ができるようにする。 興奮しすぎて、話が脱線してしまうことがないようにする。
C	<ul style="list-style-type: none"> 自分から主体的にゲームへ参加する。 自分の考えを自信を持って相手に伝えられるようになる。
D	<ul style="list-style-type: none"> なかなか意見がまとまらなくても、根気よく話し合いを進める。 言葉で自分の意思が伝わらなくても、ジェスチャーや表情などを使い意思を相手に伝える。
E	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となって、その活動の意図を周囲に伝えていく。 自分から一方的に話し続けて相手が不快な気分にならないように話す。

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点 (指導の手だて・評価の観点)					備考
		A	B	C	D	E	
1分	あいさつ	あいさつを指示し、出席を確認する。					身だしなみを整える。
10分	アイスブレイク	<p>「最近あったいい話」</p> <p>① 最近自分の周りあった「いい話」を考える。</p> <p>② 一人1分以内で自分の体験した「いい話」を話す。</p> <p>③ 一人話し終わるごとに、その話の良かったところを話し合う。(1分程度)</p> <p>※ 消極的な感想は言わないようにする。</p>					
3分	本時の説明	<p>① みんなと「いい話」を共感することができたか。</p>	<p>② みんなと「いい話」を共感することができたか。</p>	<p>③ みんなと「いい話」を共感することができたか。</p>	<p>④ みんなと「いい話」を共感することができたか。</p>	<p>⑤ みんなと「いい話」を共感することができたか。</p>	題名、ルールを書いた紙を黒板に貼る
5分	ルールの確認	<p>ルール</p> <p>① お題が出たら、みんなで相談する。</p> <p>② 直接答えを言ってはいけない。そのものの色や形や使い方などの特徴を説明するのはOK。ジェスチャーなどもOK。</p> <p>③ 必ず全員が自分の考えを言うようにする。</p>					
5分	目標の確認	<p>① ルールが理解できているか。</p>	<p>② ルールが理解できているか。</p>	<p>③ ルールが理解できているか。</p>	<p>④ ルールが理解できているか。</p>	<p>⑤ ルールが理解できているか。</p>	
5分	目標の確認	自己評価シートに、本時の目標を書き入れる。その際、本時の授業の目的が「相手にわかりやすく話すこと」「相手が言いたいことは何かをよく考えること」であることを伝える。					プリント配布
15分	ゲーム開始	<p>「みんなで合わせようゲーム」をしよう。</p> <p>① 解答用紙を配布。</p> <p>② 例題を出して、全員で答える。 例題) 赤い食べ物 →教員が「それは甘い?」「丸い?」などと質問例を示す。</p> <p>③ 問題を出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニと言えば? ・おでんの具と言えば? ・体育の先生と言えば? 					適宜声かけを行う
		<p>① 解答が揃</p>	<p>② ルール</p>	<p>③ 受身に</p>	<p>④ 全体をま</p>	<p>⑤ 解答仲間</p>	

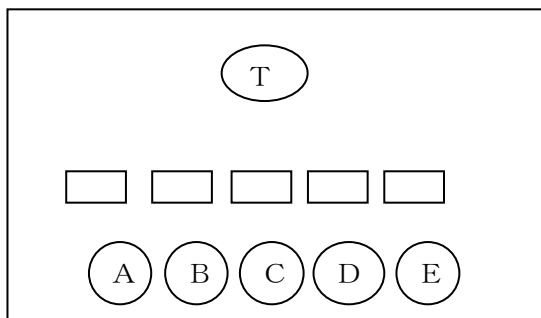
10分	振り返り	わなくても、前向きにゲームが続けられるか。	に従い、楽しんで活動に参加できているか。	なりすぎず、質問するなど主体的に参加したか。	とめつつ、自分の意見を相手にわかりやすく伝えようとしているか。	をまとめ、前向きにゲームが続けられるか。	特に仲間との協力したときの感想を聞く。
		自分の意見だけを話し始めたら、注意を促す。	盛り上がりすぎて、本題と違うことを話し出したら軌道修正をするように声をかける。	話に入れずに教師に助けを求めるときは、手を挙げるなど、意見を言う機会を作れるように声をかける。	答えが合わずにイライラする素振りが見えたら、仲間の言いたいことは何だったのかを考えるように声をかける。	全体の意見がまとまらないときは、みんなの意見を整理役ができるように促す。	
1分	あいさつ	振り返り用紙に記入 ・目標に対して、達成できたか。 ・仲間と話してどう思ったか。 ・感想発表					身だしなみを整える。
		あいさつを指示する。					

7 本時の評価

A	・中心となってゲームを進めることができたか。 ・自分ばかりが発言するのではなく、周囲の発言も促すことができたか。
B	・ゲーム内容に関係のある発言ができるようになったか。 ・興奮しすぎて、話が脱線してしないようにできたか。
C	・受け身ではなく自らゲームに参加できたか。 ・自分の考えを自信を持って相手に伝えられるようになったか。
D	・意見がまとまらなくても、あきらめずに話し合いを進めることができたか。 ・言葉だけでなくジェスチャーや表情などを使い自分の意思を伝えることができたか。
E	・活動の中心となって、その活動の意図を周囲に伝えられたか。 ・自分から一方的に話し続けて相手が不快な気分にならないように話すことができたか。

8 備考

- ・座席配置図
通常時の座席



- 話し合いのときの座席

